教えを心の支えに

真理の価値に気付いて

今年がどのような年となるか、年頭に神から学び、重ねて月々神示を基に心を高めながら、迎えた光栄に磨きをかける時。希望の光を歩み抜けます。すなわち、開運がかない、心の道に繁栄があるのです。

五月光栄信者参拝時には、一年の課題を見詰め直し、新たな神のご指導を重ねて、希望の光に磨きをかけましょう。

今年の課題は、家族で教えを学び、家庭で生かしていくことです。それは、今年に限らず、神が繰り返しご指導くださっていることです。和のある家庭は全ての基本。そこに、健康も、仕事も、生きる希望も充実するからです。

今、時代は、大きく変わろうとしています。その中で、真理を会得し、流れに乗って生きられる自分を目指しましょう。神示から真理を学び取れば、必ずそれはかないます。

神の教えを心の支え、我が人生の支えに据える方、感じ方、考え方、つまりは生き方に反映させるのです。そこに、さまざまな環境変化があったとしても、その場に応じて的確に判断、対応することができます。まして、自分一人ではなく、家族全員で教えを共有できれば、一人一人の運命実体が重なって、どれほど力強く生きていけるか知れません。

五月一日光栄祭に向けて、神はこのようにご指導くださいました。

神　示

社会の姿は　大きく変わる
「真理」に生きる人々と
知識と努力を絶対と
頼って生きる人々と
心の動きに
大きな変化となって表れる
「真理」に生きる人々は
運命に重なる
心の動きが取れるゆえ
社会の変化を受け止め
流れに乗って
生きがいある人生を
歩んでゆける
神魂が人類の魂を導き　守り
「開運」かなえて
真実救われる今時代
信者は「教え」を心の支えに
生きる時時代
神示「真理」の価値に気付きを深め
「教え」に生きる信者を目指せよ

神　示

神が使者を通し　世に示す「真理」を
家族で学び
「教え」のある家族を
家族でつくる努力が必要
「教え」が
家族の心を一つに重ね運命実体
魂安らぐ家庭へと導いてゆく
信者に申す
「真理」に悟りを得て
今の社会の姿を見てごらん真実
自ら「道」欠き　外し
自ら実体を下げ
悩み　苦しみ　迷う
人の姿と因が見えるはず
「開運」かなえて
真実救われる今時代
信者は「教え」を心の支えに
生きる時時代

神　示

「教え」に生きる心が大切
家族で「教え」を学ぶほど
家族の縁はますます深まり
運命が導く人生を歩んでゆける
――人間は　互いの運命を
重ねる出会いが持てたとき
時代と所が出会いを
生かす力となる――
偉光会館で教えを学び
「真理」に悟りを深めて
人間は　社会を「正道」へと
導く存在となれる
悔いなき人生を歩み抜く
人間の姿が　ここにある

神魂が宿る偉光会館

今埼玉に開所かなう

四月八日、関東第六、埼玉偉光会館の開所式が挙行されました。三十三カ所目となる神魂が宿る神所の誕生です。

直使のご正体が神魂と示され、全国に正しく教えを浸透させるため、各地に開設が始まった偉光会館。昭和六十三年の茨城に始まり、三十年の年月を経て、救世の館の輪は北から南まで日本各地に広がりました。

その間、神総本部から遠く離れた地が優先されたため、比較的近距離の埼玉は、神総本部を活用し続けてきました。そして、ようやく神魂が根付く偉光会館が、今開所の時を迎えたのです。

神魂が各地に根付くことは、その地が救われるとともに、日本の国がより救われていくことであり、皆で共に祝うべき慶事です。その価値を知って、身近な神所を家族そろって大いに活用し、教えを基に気付き、悟り、開運に向けて着実に歩みを進めていきましょう。

偉光会館建立をもって
この地は
大きく生まれ変わる
この地に
偉光会館建立かなえて
信者の人生は
ますます輝いてゆく

家族中で教えに触れ、神魂のご守護の中で心を育み、実体を修正して、開運への道を確かなものとすることです。開所式に当たって、神はこのように示されました。

神　示

神魂宿りて
この地の姿実体は大きく変わる
開所かなえて
今なすべきことを教えよう
「偉光会館」に家族で出入りし
家族で「教え」を学び
我が家に生かす
五感で生きる人間は
姿　形を追い求め
「運命」を見ずに
心迷い　悩んでゆく
知識に心のまれ
「運命」を枯らさぬように
「教え」に生きる心が大切
家族で「教え」を学ぶほど
家族の縁はますます深まり
運命が導く人生を歩んでゆける
――人間は　互いの運命を
重ねる出会いが持てたとき
時と所が出会いを
生かす力となる――
偉光会館で教えを学び
「真理」に悟りを深めて
人間は　社会を「正道」へと
導く存在となれる
悔いなき人生を歩み抜く
人間の姿が　ここにある

待ちに待った埼玉偉光会館の開所式

明暗が分かれる社会を

運命に重なる努力を

神のお言葉、神示がある神示教会。世の流れを見通し、表される神示に触れていれば、何に留意し、暮らさなくてはいけないかが分かり、流れにのまれることはありません。毎日が安泰です。

それには、まず時代の変化を受け入れることです。今の社会は、さまざまな情報が入り交じり、それらに振り回されてしまいがちです。しかし、教えを学んでいれば、一つ一つの是々非々、善しあしが判断できます。それが、流れに乗って生きるということです。

人生をより良いものとするには、物事の捉え方が大切です。ですから、教えを学ぶのです。学んで、生き方に返すことで指導くださっています。神も、このようにご

神　示

社会を導く力は　運命にある
運命の力に
社会は導かれ　操られている
人間は　知識と努力を頼り
「真実」に気付けず
社会を管理できると思う
ここに　社会の姿は
不安に迷い　悩みを深めている
今日　苦しみ　悩む思いが
社会の緊張を高め
無法を許している
先が見えず　真実頼る存在もなく
暗く沈む社会が広がってゆく
信者に申す
神が使者を通し
世に示す「教え」を学び
心の支えに生活することが
「運命」が社会の変化に順応し
「運命」が人生に
夢を持たせてゆく
「生きる」希望にあふれ
人との出会いが深まる
明るい社会に生きられる
「生きる」今
社会を大きく分ける
真実「真理」を知って
「教え」に生きる信者であれ
「教え」が信者の心を
明るく導いてゆく

社会を導く力は、運命にあります。しかし、世の中では、社会を動かす力が運命などとは、ほとんどの人が思うことはないでしょう。とはいえ、人間の力の限界は見えています。人の力で社会をより良く導くことなどできないのです。

それぞれの運命に頼ることです。それは、持っている良さを生かすということです。運命は、全ての存在が持つ力です。その運命を適材適所で生かすのです。家庭でも、職場でも、企業と企業の間でも、国と国でも、互いの良さを生かし、相互の利益に返すことです。

神がそのような時代に導こうとされている今の時。知識や努力だけに頼らず、それぞれの運命に重なる努力が大切です。運命に重なる努力であれば、そこに必ず成果が上がります。

知識にのみ頼れば、迷いを生み、悩みを深めることでしょう。その傾向が強い現代です。その中にあっても、教えが身に付けば、知識に流されることもなく、心にゆとりがあり、毎日が充実するはずです。

神が説かれる仕合せとは、毎日穏やかな心で生きられることです。一つ一つに不足を思うのではなく、今に満足、きょうに感謝して暮らせることです。教えが身に付き、その感覚になるほど、仕合せです。自分自身に与えられたものを磨いていけば、人の役に立ち、人生に花が咲きます。

神から生き方を学んで心を高めて

今、社会は明暗に分かれると、神は示されています。真理に気付かないままでは、明暗に分かれる中で、頼れる存在もなく、暗く沈む社会にのまれます。しかし、神魂に守られた自覚があれば、安心感に包まれます。

先が見えなければ、不安です。世界が変化していく今、流れにのまれてしまうかもしれません。夢が持てない感覚も生じるでしょう。そこに、先々を見てご指導くださる神示は、とても重要であり、一寸先が見えない人間にとって欠かせないものです。暗く沈む社会の中で、神示は宝です。

神の教えを心の支え、真理を人生の支えにすることです。人として必要な教えを学ぶと、折々に的確な判断ができます。ですから、人生に迷いがありません。心の動きが安定し、迷いや悩みが起きないのです。

今の社会が明と暗に分かれていく真実、真理を知って、自分は教えを軸に生きていこうと、固く決意することです。その存在が周りに良い影響を与え、明るい社会を広げていくはずです。

神　示

社会の姿は　大きく変わる
「真理」に生きる人々と
知識と努力を絶対と
頼って生きる人々と
心の動きに
大きな変化となって表れる
「真理」に生きる人々は
運命に重なる
心の動きが取れるゆえ
社会の変化を受け止め
流れに乗って
生きがいある人生を
歩んでゆける
神魂が人類の魂を導き　守り
「開運」かなえて
真実救われる今時代
信者は「教え」を心の支えに
生きる時時代
神示「真理」の価値に気付きを深め
「教え」に生きる信者を目指せよ

物事の判断を真理で

人生の土台を固める

光友会

人生の土台を固める青年期に、真理を会得できたなら、どれほど仕合せなことでしょうか。意欲に燃えた光友会の青年たちは、神示から真理を学び取り、これからの人生に生かしていこうと、誠実に取り組んでいます。

人として生きる上で、教えを心の軸に据えて、何事も真理で判断できる人になると、どのような環境にあっても、流れにのまれることはありません。物事を教えで判断する価値を、神はこのように表されています。

神　示

「人生」を社会に奉仕して
世間の高き評価を
手にした人は皆人々
「運命」が導く人生を
歩み抜いている
「開運」かなえる人の姿が人間
ここにある
なれど　悔いなき人生
手にするすべを知らずに方法
日々送る人が多い人々
「真理」に悟りを得て
日々送るなら日々
「人生」に迷いは起きない
神が世に示す「教え」は社会
全てが「真理」
「教え」を学び
社会の姿を見詰めるほどに
真実　不実が見えてくる
真理なき知識に心のまれ
迷いを深める人々の姿が
見えてくる
「教え」で物事の判断
価値を知るほど
人間の心は高くなる
「生きる」姿は基準
ますます引き上げられて
いよいよ「運命」に重なる
人と成る
――「教え」に生きて
真実「正道」を歩む人間を
目指す――
この思いが深まるほど
人間の心は人生　神の手の中守られて
時代に生きた
「証し」を残す人となる存在

神が表される教えは、全てが真理です。真理を通して社会の動きを見詰めてみると、そこに正誤が見えてきます。

物事の判断は、真理を基準にするところに、迷いが生まれず、常に的確です。そして、実体が抑えられ、運命が磨かれていきます。しっかりと神の教えを身に付けて、道を外すことなく、正道を歩み抜ける自分となれるように、学びを重ねていきましょう。

神示の生かし方を

『人生の真理27』発行

変化が激しい社会の中で、先を見通す神示があれば、何の不安もなく、安心感を持って暮らせます。神示から必要な生き方を学び取り、生活に生かすところに、日々のさまざまな心の動きも的確なものとなっていきます。

こうした大切な神示の読み取り方、生かし方がつかめるのが、『人生の真理』です。神が表される真理を心の軸に据えて生きられるように、神のお言葉、神示の生かし方を体得しましょう。

神所の活用を活発に

家族で開運に向けて

神が全国各地に授けてくださった身近な神所、偉光会館は、神魂が宿る掛け替えのない所。その偉光会館を余すことなく活用し、開運に向けて確実に歩みを進めていきましょう。

四月二十二日、供丸光先生は山形偉光会館まで出向かれて、この環境を生かし、より一層救われていくように、活発な活用を促す特別講義を行ってくださいました。この日に向けて、神はこのように表されました。

仕合せ薄く
心寂しく人生歩む人々が
多い地域
「教え」を家族で学び
真実「真理」に
悟り深めることで
救われる
神と人間は
魂を通し
つながっている
「教え」を人生の支えに
できたとき
人間の心は人生安定し
「道」欠く心の動きは
起きない
自然と家族の運命は
重なり合って
和のある家庭が
築かれてゆく
運命の力が補い
支え合って回る家庭に
人間の心は運命実体磨かれる
会話のある家庭に
六つの花びらが咲き
心身ともに
家族の健康も
大きく守られ
悔いなき人生へと
導かれてゆく
孤独の色は消え去って
「魂」安らぐ家庭に
身を置くことがかなう
神魂に心預けて生きる人生
「希望の光」が通り
家族一人一人の心は
夢多いものと成る
心迷わせ
「道」欠く人生
歩まぬ極意が
ここにある
「教え」に生きて
神の手の中
「人生」は守られ
救われ
「開運」へと
導かれてゆく

夫婦の心を重ね合い

心の道に生きる子が

子供を育てる上で重要なのは、保育施設でも、学習塾でもありません。家庭における両親の心の重なり合いです。夫婦仲良く、和のある環境でこそ、心の道を受け継ぐ子供が育つのです。

今は、福祉行政に支援されるのが当然の感覚になっています。社会で支える環境は、必要なことではあっても、重要なのは両親の心です。神は、子供を持つ親にこのように示されています。

神　示

夫婦で「教え」を学び
夫婦の心を一つに重ねて我が子に触れる
親の思いを受け継いで
我が家の「心の道」に生きる子供が
育ってゆく
今の社会の姿を見てごらん
素直　正直　誠実に「生きる」
心の姿が見えずに　日々を送る人々が多い
「道」欠く人生を歩み
自ら悩み　迷いを深めてゆく
神が示す教えは「真理」
教えに生きる夫婦が築く家庭で
我が子は実体を高め
運命に重なる人生を手にできる
社会を「正道」へ導き　多くの人々の上に立つ
人を育てる家庭を夫婦で築く
この思いが深まるほどに
自然と教えの中にある「真理」が見えてくる
そして
教えに生きる実践を重ねてゆくのである
夫婦の会話はますます深まり
夫婦二人の運命が重なり合って
我が子の心は人生　教えに守られ
運命に重なる時を待つ

時代の姿が大きく変わろうとする今
信者は家族で「教え」を学び
――「教え」に生きて
人間は運命に重なる「人生」を歩んでゆける――
「生きがい」を手にし
喜び多い人生を歩む　人間の心が　ここにある

友輪

発行所　横浜市南区宮元町4丁目
82番地　郵便番号232-8515
大山祇命神示教会神総本部
編集部
電話　045・731・5373
©大山祇命神示教会　2018

埼玉偉光会館が開所

ひかりのやかた

埼玉に全国で三十三番目の神所が誕生しました。四月八日には、神主、教主、神奉仕をお迎えして、記念式典を挙行。その模様は神総本部と各地の偉光会館にも中継され、多くの人々がこぞってお祝いしました。これから神魂が根付く神の館に出入りし、高い生き方を身に付ける人が、一人、また一人と増えていくでしょう。

埼玉の人々が指折り数えて迎えた開所式。春の柔らかな日差しが降り注ぐ中、偉光会館には、開門前から続々とバスが到着しました。「生まれ育った地に神の館を頂いて夢のよう」「まるで我が家のような温かさと優しさに包まれている」などと、誰もがこぼれんばかりの笑顔で神門をくぐる姿がありました。

清らかな雰囲気の中で行われた式典で、神主、教主、神奉仕のお言葉に真剣に耳を傾けた埼玉の人たち。神魂が宿る神所の尊さをかみしめ、偉光会館で生き方を磨く思いを高めました。代表者が述べた感謝の言葉に自分の思いを重ねて、「この感動を忘れずに、大切に活用していこう」と心に刻んだ人も。あふれる涙を拭う人も多く、館中が感謝と感動の渦に包まれました。

感謝と希望にあふれた開所式

歓喜に沸いたのは、埼玉だけではありません。横浜に住む女性は、長年神総本部で共に学んできた埼玉の知人を思いながら出席。「自分のことのようにうれしい」と満面の笑顔でした。茨城で出席した人は、全国初の神所を頂いた三十年前を振り返り、「神魂がその地、その地に根付いていく素晴らしさを感じた」と語りました。全国の信者が神の館の価値を再認識し、また一つ救いの拠点が生まれた喜びを分かち合った一日でした。

身近になった神の館
各自が真心を寄せて

一人一人が教えで生きる決意を

心を磨く思いを強く

「これからは、いつでも参拝できる」「家族で節目の儀式を受けるのが楽しみ」待望の神の館の誕生に、埼玉の人々の心は高揚感でいっぱいです。「神総本部からさほど遠くない場所にあり感謝も大きく、「この頂いた」という感謝も大きく、「この地の仕合せを願われる神の思いに応えたい」「これを機に、暗くて弱い自分から、明るく前向きな人へと生まれ変わろう」と、各自がこれまで以上に教えで生きる思いを強くしています。

開所に当たり、神が表された神示は、『偉光会館』に家族で出入りし、家族で『教え』を学び、我が家に生かす」とありました。各自が心に留め、「子供に背中を見られても恥じない生き方をしよう」「家族に意見を押し付けてばかりだったけれど、思いが通い合う会話を心掛けて…」などと、さらなる心の成長を目指しています。

昨年亡くなった我が子の写真を抱えて式典に出席した夫婦は、「娘の分まで館に心を寄せ、仕合せな人生を歩んでいこう」と、前向きに語りました。母親と訪れた大学生は、『ここにたくさん来たい』と感じた。いろいろな勉強会で学んで、人として大切な心を身に付けたい」と意欲満々です。

これまで電車やバスを乗り継ぎ、何時間もかけて群馬偉光会館を訪れていた女性は、「神殿でご挨拶をしていたら、涙が止まらなくなった」と感無量。「たくさん足を運んで、みんなと手を取り合って仕合せな人生を…」と、期待に胸を躍らせています。

館の価値を味わって

開所の翌日以降、仕事帰りに、休日にと、大勢の人が足を運んでいます。「偉光会館で実りの集いに出席するのをずっと楽しみにしていた」と言う小学生や、「開所当日は来られなかったから…」と話す群馬県寄りに住む埼玉北部の人たちもいて、連日活気に満ちています。館を守る職員も、「この地に仕合せの輪を広げていきたい」と、心を重ねてお迎えする毎日です。

これまで神の館まで遠く、なかなか学べなかった人も、家族や知人と誘い合わせて参拝へ。「中継授業を聞いて、神総本部にいるような気持ちになった」「開所するまで何度も県内の勉強会に来てくれた館長が、温かく迎えてくれてうれしい」などと、身近な館に出入りする喜びを味わっています。開所前から次々と申し込みがあった儀式も毎日のように行われ、「未在籍の親戚も誘いやすくなった」との声が。身内との縁がますます育まれるひとときとなっています。

埼玉偉光会館の近くには小中学校があり、周りには活気があります。参拝の道すがら、擦れ違う近隣住民や生徒と気持ちよく挨拶を交わしたり、帰りに飲食店に立ち寄って店員との会話を楽しんだり。教えを学び、奉仕心を実践する人たちの姿は、今後町全体の雰囲気を明るくしていくはずです。

これから折に触れて活用するほど心が育まれ、誰もが仕合せな人生を歩んでいけるでしょう。

救われた喜びを語る
教えに生きる姿から

もし、家族や友人から「あなたの行っている教会って、どんな所なの」と聞かれたなら、どのように感じるでしょうか。「他の宗教と同じように思われたくない」「どの書籍を紹介すれば伝わるか」などと思いを巡らしたりするでしょうか。

神示教会の概略を伝えるには、『心の道への導き書』のご案内冊子が活用できます。また、神示教会の公式サイトは、初めての人にも見やすく、誰にも気軽にご案内できます。

公式サイトから情報を

大切なのは、宗教との違いをどう説明するかということより、自分自身が神魂に救われている感謝の心で、相手と向き合うことです。日頃から教えを学んでいれば、必要な気付きが得られ、祈願とともに実行することで、確実に心は成長しています。その自分の心に自信を持つことです。

交際を始めた当初、相手から「僕は宗教を信じない」と言われて衝撃を受けた人が、思い悩んで勉強会に出席しました。すると、帰りには「相手の価値観を否定せず、愛の心で接していけばいい」と思えました。その後、「教えを学ぶのはいいことだね」と言われるまでに、二人の縁は深まっています。

心の成長を求めて参拝

在籍して間もない女性は、良い教えと分かっても、神の実在を実感できずにいました。そのような時、『真実への道 光の足跡』集大成版を読み進める中で、供丸姫先生の救世に懸けられた人生に心が震え、神の実在を深く感じられたのです。その感動を最初に伝えたかったのは、家族でした。今でも、教えを学んで気付いた喜びは、何でも家族に語っています。

身近な人と教会の話をするときに、相手が見るのは人柄です。それは、教えに映し出された、明るく生きがいに満ちた姿であるはずです。

悩みを抱えた友人に、神の教えでアドバイスした人がいます。「気持ちが楽になった。私もあなたのような優しい人になりたい」と言われて、思わず「神から学ぶ教えのおかげで…」と言葉が出ました。今の自分の心がここまで豊かに変われたのは、教えの裏に神魂の存在があればこそ。教えを学ぶと自分の心を客観的に見詰めることができるので、修正すべき点を自覚して祈願できます。日々神の教えに沿える自分でありたいと願いながら、神魂と共に歩める人生の喜びは計り知れません。その思いが自然と口から出ていたのです。

年代や体験、感じ方や人生の価値観など、人それぞれに違っていても、自ら輝く姿から教えに生きる価値が伝わります。家族や身近な人との縁が深まるほど、救われた感謝が広がるでしょう。

真理で暮らす光る姿が
『心の旅路93』発行

互いの活躍が励みに

神の教えを学ぶと、人として大切にすべき心の在り方が見えてきます。気付いたことを暮らしに生かすほど、自分自身の心はもとより、周りの環境は着実に潤っていくでしょう。

豊かな心で生きる人々の様子は、『心の旅路』で紹介。「家庭の雰囲気が和やかに…」「職場での信頼が深く…」教えを生かして明るく歩む姿が、読者の励みになっています。

「地域の仲間の話に勇気づけられた」「掲載されていたお店に行ってみて、人柄に感動した」との声も。「あの講師に会いたくてスポーツジムに…」「農家の方の真心に感銘を受けて、農作物を取り寄せて…」と、誌面を通して縁が結ばれることもあります。『心の旅路』から、多くの人が真理を軸に暮らす思いを強くしています。

五月発行の最新刊は、「心が楽になる方法」がテーマです。さまざまな事例から、捉え方一つで人生が変わる生き方が伝わります。家庭や仕事についての特集も組まれ、教えに生きる多くの人々の姿から参考になることがたくさんあるでしょう。

心のかけ橋

人生の真理 楽しく学ぶ毎日

青森県　対馬智子

私は、『人生の真理』を読むのを日課にしています。毎日の中でちょっとした時間に読むだけでも、心の状態が違うのです。朝、目覚めのコーヒーを飲みながら読んだ後は、心が明るくなり、起きてくる家族に気持ちよく挨拶できます。

神の教えを家庭で生かす努力が大切と学び、つかんだことを自分から実践しようと努めています。家族に声を掛け、褒めることを忘れないようにします。ささいなことですが、楽しみながら続けています。

いつも教えを意識できるようになったからか、夫の言葉にかちんときても、すぐに祈願で心を修正できます。職場の仲間が不満を言っていても動じません。「学んでいると、こんなに違うんだ」と感じます。もっと教えを生かせるように、祈願とともに努力していきたいと思います。

自分の変化で 心が通う喜びが

栃木県　前橋邦彦

昔の私は亭主関白で、家族の意見を抑え付けてばかりでした。それが十一年前、胃がんの手術を機に家族への感謝が湧き、「ずっと一緒に過ごす存在だから、仲良くしよう」と思ったのです。

話は最後まで聞き、言いたいことを全部言うのではなく、言葉を選んで伝えることを心掛けました。そのうちに、少しずつ会話が続くようになり、意志の疎通がスムーズになったと感じます。

以前は、外出する妻に服装について意見を求められ、「何を着ても代わり映えしないよ」と言って、傷つけたこともありました。今は、コーディネーターになりきり、自分の服も見てもらっています。会話をするのが楽しく、仕合せの基は夫婦の和にあると実感する毎日です。

代表を務めている俳句サークルでも、みんなの意見を否定せず、よく聞いていると、もめることはありません。神の教えで接する大切さを感じます。これからも、もっと心をステップアップさせていきたいと思います。

偉光郷の研修 気付きを実践に

神奈川県　江藤有美

偉光郷で参加した三十代から五十代までの研修は、私にとって素晴らしい体験となりました。事例を基に参加者同士で語り合う中で、物事を自分の感情や知識、情報で判断していたと気付いたのです。「神の教えで考えるとどうだろう」と意識し、祈願しながら受け止めることが大切だと実感しました。

研修から帰宅すると、大学三年生の娘が、「就職活動と教育実習が重なって負担…」と相談してきました。いつもなら、自分の考えを押し付けていたと思います。それが、「あなたの良さが生かせる道を選べるといいね」「後悔しない選択をすることが大切よ」と、優しく話せたのです。何事も神の教えで考えることが身に付くように、今後もしっかり学んでいこうと心に誓っています。

同居で深まった 家族への感謝

新潟県　高島静子

我が家は、九十歳の私と長男夫婦、孫夫婦、ひ孫二人の七人家族です。孫たちと同居した頃は、孫に、「四十六年の感謝を込めて」と、妻が花束を贈りました。

生き方をつないで

縁ある人々と喜び多い日々を過ごした先に、誰もが迎えるのが人生の終日です。

女手一つで育ててくれた母を亡くし、教会葬儀、玉納奉寿を申し込んだ姉妹。注いでもらった愛を、家族や縁ある人に返すことを誓いました。

偉光郷で行われた、故人をしのぶ明生の儀。三年前に亡くなった父に、「結婚して子供ができ、おやじの偉大さが分かった」と語り掛ける息子。毎日父親の思い出話に花が咲き、みんなの笑顔が絶えないそうです。愛の心で生きた姿は、親から子へと受け継がれていきます。

それまでの歩みを振り返り、あらためて一日一日の大切さに気付く儀式のひととき。家族の絆も一層深まっていきます。

人生の節目に儀式を
家族の心の絆が強く

人の一生には、誕生から終焉に至るまで、さまざまな節目があります。全国の神の館では、その折々に家族と受けられる儀式を行っています。

親子で共に成長を

北海道札幌偉光会館で神受祭を受け、結婚した夫婦は、新たな命を授かり、帯祝いである福帯の儀を受けました。その後も、神から命名を頂く神魂祭に、親子で初めて神の元を訪れる神宮祭にと臨んでいます。「大切に育てようという思いがどんどん深まる」とうれしそうです。

子供の成長に合わせて行う七五三の儀式、三立の儀。我が子の健やかに育つ姿に喜びがあふれ、「親としての責任を感じる」との声が届きます。

世に役立つ力が芽吹き始める十五歳には、神宝祭を行います。福岡では、普段は無口な子が「運命を大切に磨いていきます」と熱く語り、家族を感動させました。

神に感謝を届けて命名を頂く神魂祭

熊本で行われた成人の儀では、病弱だった子供が二十歳を迎え、感極まる両親。息子は「支えてくれるみんなのおかげ」とお礼を述べました。

親や家族に見守られ、子供たちは力強く社会へ巣立っていきます。

深まる感謝の思い

長い年月を共に過ごすほどに、支えてくれる人への感謝が深まります。

夫婦にとって特別なのが、結婚記念日。二十五年目の金光輪の儀式が行われたのは大阪です。夫に「子供も独立したし、二人の時間を大切にしよう」と言われ、妻は驚きながらも満面の笑顔に。

長寿を祝うのは神魂の儀です。六十歳を迎えた女性が娘二人と兵庫で参列。「お母さんの子でよかった」との言葉に、うれし涙をこぼしました。茨城高萩では、七十歳の産も購入できます。「施設に入所した母の心が和むように」「なかなか参拝できない友人に、横浜土産で教会の薫りを」と言う人も。大切な人を思う気持ちが漂います。

五月からは、お泊まり処もオープンします。神総本部に足を運ぶ人たちが、これまで以上に充実した時間を過ごせることでしょう。

笑顔が生まれる空間
愛光会館で安らぎを

神総本部愛光会館は、訪れた人に安らぎを与える愛の館です。

お食事処は、一階が授業の合間に定食などを手軽に食べられる大食堂。二階は、新鮮な海の幸をゆったり堪能できます。三階は喫茶処で、好みのパンやケーキが楽しめます。混雑時には、互いに譲り合い、「この席が空きますよ」と声を掛け合う姿が。つえを突いている人に、「手伝いましょうか」と申し出る人もいて、温かい雰囲気に包まれています。

四階は会食処で、儀式の折など、家族や友人と個室で水入らずのひとときを過ごせます。両親の結婚記念の儀式を終えて訪れた女性は、特注のケーキで祝意と感謝を伝えました。長寿のお祝いには、三世代、四世代が集まることも。孫やひ孫が歌や手紙を贈ることもあり、和やかなムードに花を添えています。

いつも心が温かく

一階お土産処では、菓子をはじめ、各種のお土

ビル案内

教会費払込票を送付 今後は口座振替で

授業、教材、施設の整備や運営は、教会費に支えられています。来年分をこれから納める世帯には、「教会費納入のお知らせ兼払込取扱票」を五月に送ります。コンビニやゆうちょ銀行からの納入にご活用ください。

今後、自動的に納められる口座振替を基本とすることを目指します。指定口座と届け出印を用意し、神総本部、偉光会館でお手続きください。

編集後記

神魂が宿る神総本部、偉光会館。その価値が分かれば、折有るごとに足を運ぶことでしょう。真理を学び、祈願をもって生き方を高める繰り返しに、開運へと近づいていきます。神魂とつながる神の館。気付き、悟りを深めて、悔いのない人生を歩み抜きましょう。